



アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（資産成長型） アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（予想分配金提示型）

追加型投信／内外／株式

資産成長型 第8期（決算日2024年10月25日）

予想分配金提示型

第41期（決算日2024年5月27日） 第42期（決算日2024年6月25日） 第43期（決算日2024年7月25日）

第44期（決算日2024年8月26日） 第45期（決算日2024年9月25日） 第46期（決算日2024年10月25日）

作成対象期間（2024年4月26日～2024年10月25日）

<資産成長型>

第8期末（2024年10月25日）	
基準価額	16,276円
純資産総額	33,615百万円
第8期	
騰落率	8.3%
分配金（税込み）合計	0円

<予想分配金提示型>

第46期末（2024年10月25日）	
基準価額	10,733円
純資産総額	13,995百万円
第41期～第46期	
騰落率	8.1%
分配金（税込み）合計	1,000円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数第2位を四捨五入して表示しております。

（注）純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。

アライアンス・バーンスタイン株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目1番6号 日比谷パークフロント

お問合せ先 **お客様窓口**

電話番号 **03-5962-9687**（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

ホームページアドレス <https://www.alliancebernstein.co.jp>

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（資産成長型）」は第8期決算、「アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（予想分配金提示型）」は第46期決算を行いました。

両ファンドは、主要投資対象であるルクセンブルグ籍の円建外国投資証券への投資を通じて、SDGs達成への貢献が期待される日本を含む世界各国の企業の株式に投資し、信託財産の長期的な成長を目指します。当作成対象期間もこれに沿った運用を行ってまいりました。

ここに、両ファンドの運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。書面での交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

○当ファンドは、信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、アライアンス・バーンスタイン株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

<「運用報告書（全体版）」の閲覧・ダウンロード方法>

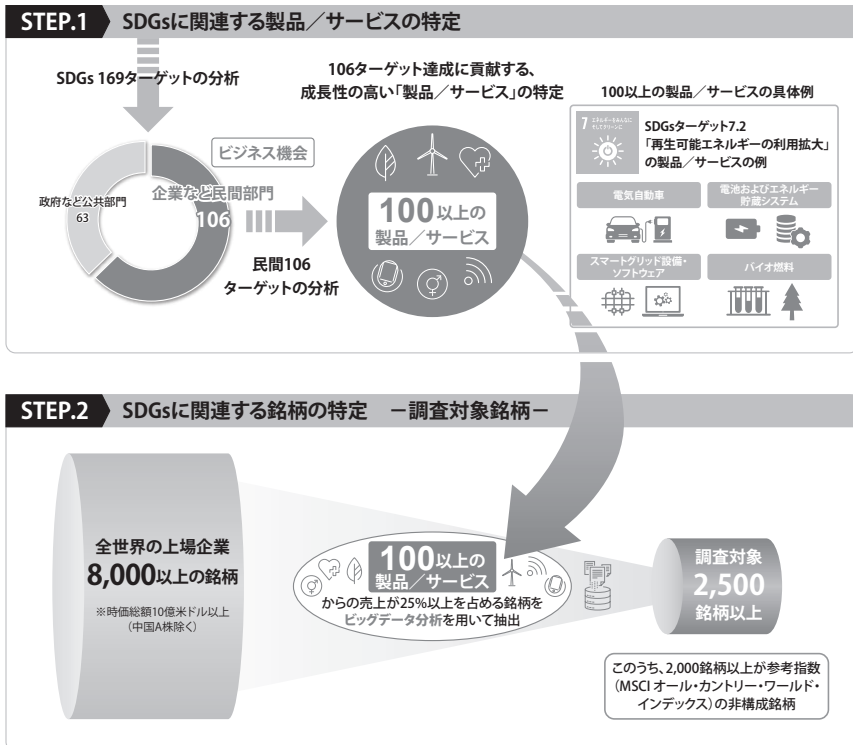
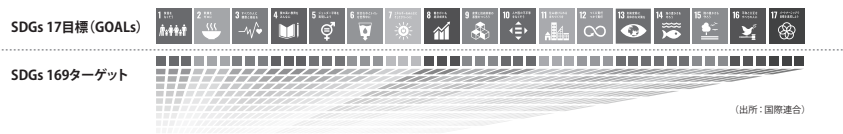
上記ホームページアドレスにアクセス → 「国内投資信託 基準価額一覧」を選択 → 「基準価額一覧」を選択 → 表内の当ファンド名を選択 → 「運用報告書（全体版）」のリンクを選択

アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンドの 投資対象ファンドの運用プロセス

アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンドは、主要投資対象ファンドである「AB SICAV Iーサステナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ」への投資を通じて、SDGs達成への貢献が期待される日本を含む世界各国の企業の株式に投資します。下図のようなプロセスで、環境または社会志向等の持続可能な投資テーマに積極的に取り組む企業の株式に投資します。

<運用プロセス>

株価指数の構成銘柄にとらわれず、SDGsを起点として調査対象銘柄群を幅広く特定することで、投資機会をもれなく追求



STEP.3 SDGsに関連する投資魅力度の高い銘柄を厳選

調査対象 2,500銘柄以上

組入候補銘柄群 約400銘柄

組入銘柄 30-60銘柄

- ・SDGs関連の高成長企業
- ・高い投資魅力度

- グラスルーツ(草の根)リサーチに基づき、各企業を徹底的に調査
- 組入候補銘柄に対して同一の銘柄評価基準を用いて投資魅力度を測定

【銘柄評価基準】
 スプレッド(予想リターンと資本コスト*の差)に基づく投資魅力度の測定

【分析手法】

予想リターン
 ▼今後5年間の長期キャッシュフロー予想に基づき株価の予想リターン(年率)を算出

資本コスト
 ▼ESG評価や事業リスク評価等によるリスク分析に基づき、独自の資本コストを算出

スプレッドが大きい銘柄ほど魅力度が高いと判断し、組入れ

* 資本コストとは、株主・投資家が投資する資本に対して要求する最低利回り(期待収益率)を指します。

エンゲージメント

エンゲージメントとは“企業との対話”を意味します。主要投資対象ファンドでは、ポートフォリオ・マネジャーとアナリストが投資先企業の経営陣との継続的な対話を通じ、ESG面も含め、投資先企業の「株主価値」の向上を目指して積極的な提言を行っています。

※議論のテーマは炭素排出量、役員報酬、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン(DEI)など、多岐にわたります。

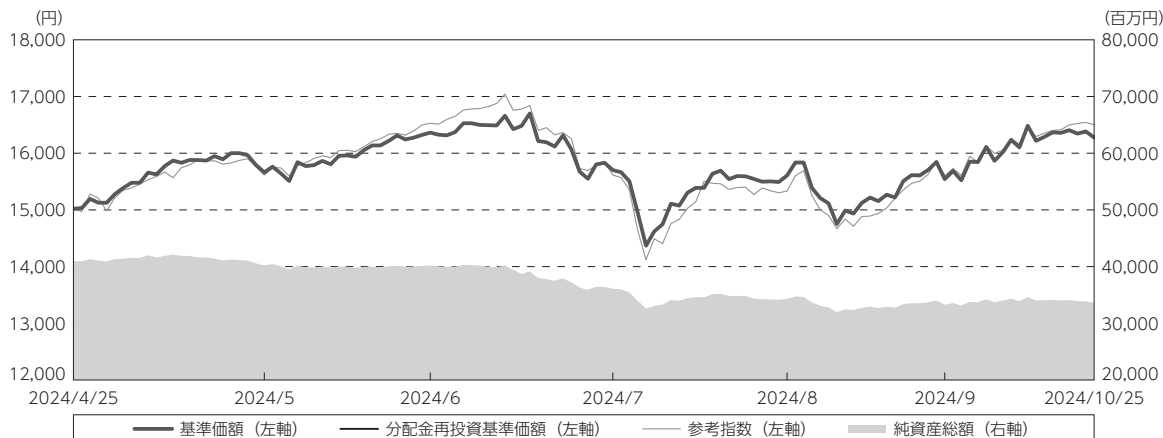
アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（資産成長型）

運用経過

アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（資産成長型）（以下「当ファンド」ということがあります。）の運用状況をご報告いたします。

期中の基準価額等の推移

（2024年4月26日～2024年10月25日）



期首：15,022円

期末：16,276円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：8.3%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、期首（2024年4月25日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 参考指数は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）です。詳細はP6をご参照ください。

○基準価額等の推移

当ファンドの基準価額（分配金（税込み）再投資）は前期末比で上昇しました。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主としてルクセンブルグ籍円建外国投資証券「AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ」への投資を通じて運用を行います。当期における基準価額の主な変動要因は次のとおりです。

上昇要因

- ・保有銘柄の価格上昇

下落要因

- ・円高米ドル安となったこと

1万口当たりの費用明細

(2024年4月26日～2024年10月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	71	0.454	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(4)	(0.028)	委託した資金の運用、基準価額の算出等の対価
（ 販 売 会 社 ）	(65)	(0.414)	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.013)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	0	0.000	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 先 物 ・ オ プ シ ョ ン ）	(0)	(0.000)	売買委託手数料は、組入金融商品等の売買の際に売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	0	0.003	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ そ の 他 ）	(0)	(0.003)	その他は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受益権の管理事務に係る費用、計理業務関係費用、印刷業者等に支払う法定書類の作成・印刷・交付および届出に係る費用等
合 計	71	0.457	
期中の平均基準価額は、15,678円です。			

(注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。

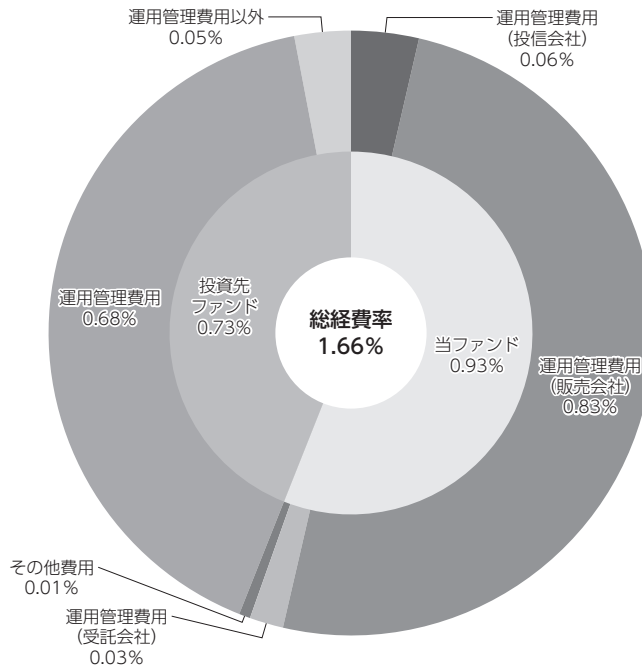
(注) 組入投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.66%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.66
①当ファンドの費用の比率	0.93
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.68
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.05

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

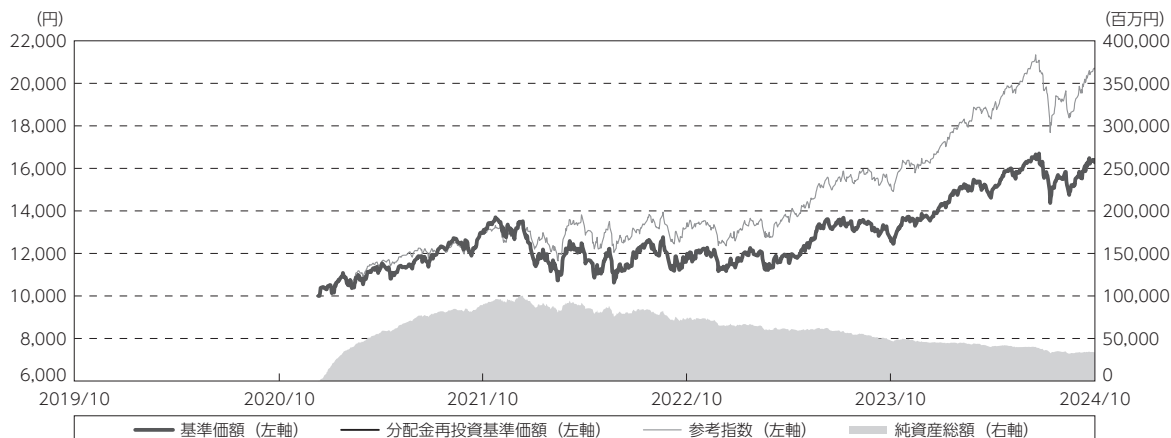
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2019年10月25日～2024年10月25日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 参考指数は、当初設定日（2021年1月5日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
 (注) 当ファンドの当初設定日は2021年1月5日です。

	2021年1月5日 設定日	2021年10月25日 決算日	2022年10月25日 決算日	2023年10月25日 決算日	2024年10月25日 決算日
基準価額 (円)	10,000	12,954	11,785	12,728	16,276
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	29.5	△ 9.0	8.0	27.9
参考指数騰落率 (%)	—	28.9	3.2	14.8	35.4
純資産総額 (百万円)	1	89,125	73,465	47,848	33,615

- (注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は当初設定時の金額、純資産総額は当初設定元本総額を表示しており、2021年10月25日の騰落率は当初設定日との比較です。
 (注) 参考指数は、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）です。

●参考指数に関して

○MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックスは、先進国と新興国の株式で構成される株価指数で、世界全体の株価動向を示す指数としては代表的なものとして広く利用されています。

MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに、我が国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円換算したものです。

当該指数に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。

投資環境

（2024年4月26日～2024年10月25日）

【株式市場】

当期の世界株式市場は上昇しました（米ドルベース）。

2024年7月中旬にかけては、欧米の利下げ観測などから上昇基調で推移しました。その後8月上旬にかけては、米ハイテク大手企業の人工知能（AI）投資の収益化をめぐる懸念や、米国の景気減速懸念などから大きく下落しました。8月中旬以降は、米国の景気減速への過度な懸念が後退したことや、中国が景気刺激策を発表したことが好感され、再び上昇基調で推移しました。

【為替市場】

為替市場では、前期末比で円高米ドル安となりました。

2024年7月上旬にかけては、日米金利差が急速には縮小しないとの見方を背景に円安米ドル高基調で推移しました。その後は、日本銀行（日銀）が追加利上げに動く一方、米国では景気減速懸念から利下げ観測が高まったことで急速に円高が進行しました。9月中旬以降は、日銀の追加利上げ観測の後退や米国長期金利の上昇などを背景に再び円安米ドル高基調で推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2024年4月26日～2024年10月25日）

【当ファンド】

ルクセンブルグ籍円建外国投資証券「AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ」を主要投資対象とし、投資割合は高位を維持しました。

また、「アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド」にも投資を行いました。

【AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ】

SDGs*達成への貢献が期待される日本を含む世界各国の企業の株式に投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指しました。持続可能な投資テーマに適合し、世界で最も魅力的な証券を特定することを目的とし、「トップダウン」と「ボトムアップ」を組み合わせた投資プロセスを採用しました。

その結果、セクター配分においては、情報技術セクターなどを上位としました。国別配分においては、米国などを上位としました。

*「SDGs(エスディーゼーズ：Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標)」とは、貧困や不平等、環境破壊などの様々な問題を解決することを目指す、世界共通の目標です。17の目標(GOALS)と、より具体的な169のターゲットから構成されています。2015年9月の国連サミットで、2016年から2030年までの国際目標として採択されました。

【アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド】

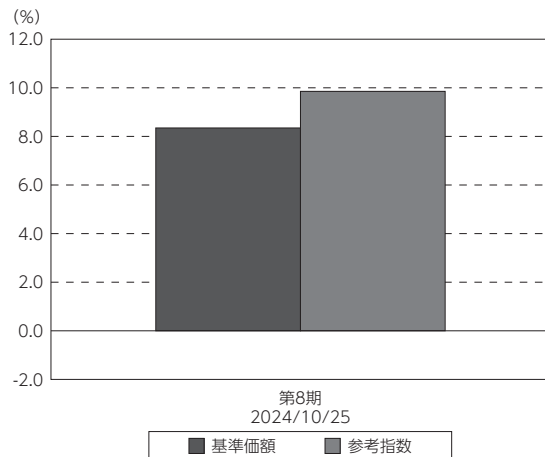
主としてわが国の国債および国内外の主要取引所に上場する債券先物に投資することにより、信託財産の成長を図ることを目標とし、日本国債の長期国債先物への投資を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2024年4月26日～2024年10月25日）

当ファンドは特定の指数を上回ることを目指す運用を行っていないため、ベンチマークを設けておりません。右のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



- (注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。
 (注) 参考指数は、MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）です。詳細はP 6 をご参照ください。

分配金

（2024年4月26日～2024年10月25日）

当期の収益分配については、長期的な信託財産の成長を目指す観点から、見送ることとしました。なお、収益分配に充てなかった利益については、信託財産内に留保し、「運用の基本方針」に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第8期
	2024年4月26日～ 2024年10月25日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	6,275

- (注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の当期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
 (注) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数以下切り捨てで算出しているため合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
 (注) 上記表は、経費控除後の数値です。

今後の運用方針

【当ファンド】

ルクセンブルグ籍円建外国投資証券「AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ」を主要投資対象とし、投資割合は高位を維持します。

【AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ】

AIの収益化をめぐる懸念が生じ、マグニフィセント・セブンの利益成長が減速していることで、大型ハイテク企業以外の銘柄が市場での存在感を高めています。また、幅広い銘柄でファンダメンタルズが改善していることから、市場の株価形成のすそ野がさらに拡大することが予想されます。世界各国の中央銀行による金融緩和サイクルの出遅れ、米国大統領選挙の影響、地政学的リスクに対する懸念もあり、当面は不安定な市場が予想されます。こうした中、引き続き確信度が高いポジションを維持するとともに、既存の保有銘柄の見直しを行いながら厳選した新規銘柄の組入れも行っています。半導体ソフトウェア設計のリーディング・カンパニーや、世界的なインフラ投資の拡大から恩恵を受ける企業、特定の分野に特化したニッチな医療機器企業、未開拓の市場で圧倒的なシェアを有するeコマース企業、女性向けヘルスケアに重点を置く診断および画像処理を提供する企業、アスレチック・シューズのリーディング・カンパニーなどに注目しています。サステイナブル投資の「気候」、「健康」、「エンパワーメント」という3つの投資テーマは、世界の大きな流れとともに前進を続けており、このような強力な投資テーマから利益を生み出す企業を見極めることに注力しています。引き続き、SDGs達成への貢献が期待される企業へ投資することで信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

【アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド】

引き続き、主としてわが国の国債および国内外の主要取引所に上場する債券先物に投資を行います。

※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

<ご参考>代表的な組入銘柄解説・SDGsの取組みについて

AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズにおいて投資している銘柄は、基本的に持続可能な投資テーマに積極的に取り組む企業の株式です。代表的な組入銘柄について、SDGsが企業価値向上に資すると判断した根拠をご説明いたします。なお、以下は入手可能な直近のデータを掲載しております。

基準日：2024年9月30日

ネクステラ・エナジー



SDGs目標：7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」

【SDGsが企業価値向上に資すると判断した根拠】

再生可能エネルギーによる発電・供給の世界的大手企業。米国での石炭から再生可能エネルギーやよりクリーンなガスへの転換を可能にする。風力や太陽光などの発電において50%以上のゼロカーボンを達成。合併した電力会社のガルフ・パワーは石炭を発電に使用しているが、近年中に石炭発電所をすべて閉鎖し、新たに太陽光発電や風力発電に置き換える予定。再生可能エネルギー業界の成長にけん引され、再生可能エネルギー発電量のさらなる増加を見込む中、企業利益が成長しており、持続可能な未来へのシフトにおける業界でのリーダーとみている。

台湾セミコンダクター



SDGs目標：12「つくる責任 つかう責任」

【SDGsが企業価値向上に資すると判断した根拠】

台湾に本拠を置く専業ICファウンドリ(製造専業)のビジネスモデルの先駆者。設立以来、技術力とスケールメリットを活かした高い競争力でシェアを拡大した、世界規模の大手専業半導体ファウンドリ。今後はスマートフォンや電気自動車に続き、生成AIの台頭などを背景に更なる需要拡大が見込まれる。また、2050年カーボンニュートラルを目指す上で、半導体の省エネ化・グリーン化の重要性が高まり、同社は最先端製造プロセスの確立による半導体の微細化を通じた省電力および性能の向上に不可欠な存在とみている。

ベラルト



SDGs目標：6「安全な水とトイレを世界中に」

【SDGsが企業価値向上に資すると判断した根拠】

多様な産業向けの機器やソリューションを提供する業界大手ダナハーからスピンオフした、環境・応用ソリューション企業。主に水質事業(水質データ管理や工業用水処理、水質分析など)や製品品質・イノベーション(パッケージング管理プラットフォームなど)に関する事業を手がける。水質分析と差別化された水処理ソリューションの包括的な事業を通じて、水供給を管理、検査、処理し、工業用水の環境への影響を最小限に抑えるほか、世界人口の約4割への安全な飲料水の安定供給に貢献している。

※ SDGsアイコンは、貢献するSDGsを指します(出所：国際連合)

エンゲージメントについて

AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオの運用戦略である「アライアンス・バーンスタイン・サステナブル・グローバル・テーマ株式戦略」のポートフォリオ・マネジャーとアナリストは、投資する企業の経営陣・取締役会メンバーに対し継続的にエンゲージメントを行います。その議論のトピックは、炭素排出量、役員報酬、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン(DEI)など、環境・社会・ガバナンス(ESG)のさまざまなテーマにわたります。

過去のエンゲージメントについて、当社ホームページ(以下のURLの「月報・各種資料」)に『ESGエンゲージメント・レポート』を掲載していますので、ご参照ください。

<https://www.alliancebernstein.co.jp/retail/5247.html>

また、右の2次元コードをスマートフォン等のカメラで読み込むことで、直接ご覧いただけます。



お知らせ

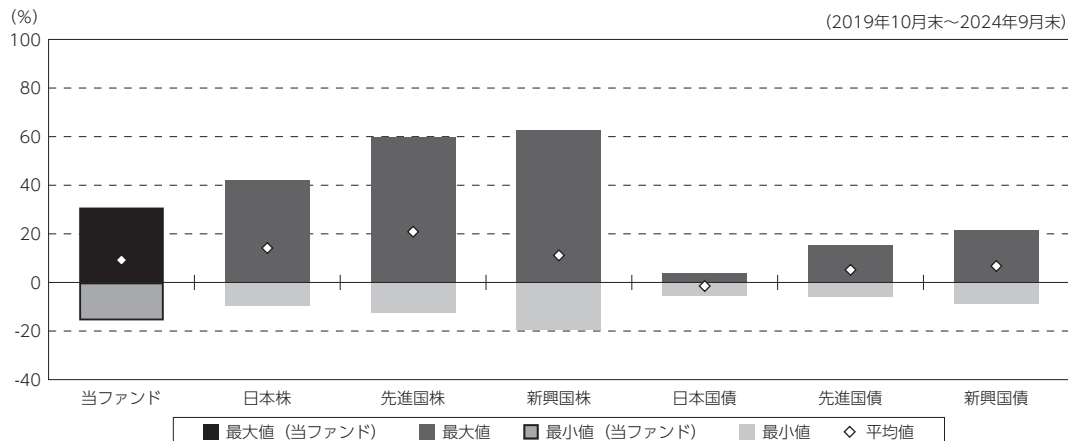
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2031年4月25日まで（信託設定日：2021年1月5日）	
運用方針	信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（資産成長型）	ルクセンブルグ籍円建外国投資証券「AB SICAV Iーサステナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ」を主要投資対象とします。このほか、「アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド」の受益証券にも投資を行います。なお、短期有価証券および短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	AB SICAV Iーサステナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ	日本を含む世界各国の株式等。
	アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド	主としてわが国の国債および国内外の主要取引所に上場する債券先物に投資。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主要投資対象ファンドへの投資を通じて、環境または社会志向等の継続可能な投資テーマに積極的に取り組む、日本を含む世界各国の様々な企業の株式に投資します。 ・主要投資対象ファンドへの投資割合は、原則として高位を維持します。 ・実質的な組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。 ・主要投資対象ファンドの運用は、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが行います。 ・ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。 	
分配方針	<p>原則として、毎決算時（毎年4月25日および10月25日。休業の場合は翌営業日）に以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、将来の収益分配金の支払いおよび金額について保証するものではなく、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないこともあります。 ・留保益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用を行います。 	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：％）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	30.8	42.1	59.8	62.7	3.7	15.3	21.5
最小値	△ 15.6	△ 9.5	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	9.2	14.1	20.9	11.1	△ 1.5	5.2	6.8

- (注) 上記グラフは、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、2019年10月～2024年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- (注) 当ファンドの年間騰落率は分配金再投資基準価額に基づき計算した騰落率ですので、実際の基準価額に基づき計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- (注) 当ファンドにつきましては、2022年1月以降の年間騰落率を用いています。

《各資産クラスの指数》

- 日本株…… TOPIX（東証株価指数、配当込み）
- 先進国株…… MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）
- 新興国株…… MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
- 日本国債…… NOMURA - BPI 国債
- 先進国債…… FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
- 新興国債…… JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、P29の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2024年10月25日現在)

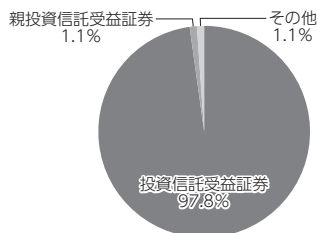
○組入上位ファンド

銘柄名	第8期末
	%
AB SICAV Iーサステナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ	97.8
アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド	1.1
組入銘柄数	2銘柄

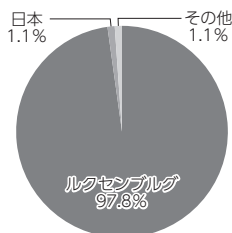
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

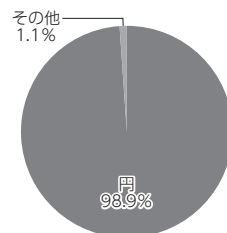
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

項目	第8期末
	2024年10月25日
純資産総額	33,615,432,003円
受益権総口数	20,653,847,623口
1万口当たり基準価額	16,276円

(注) 期中における追加設定元本額は87,799,137円、同一部解約元本額は6,718,234,922円です。

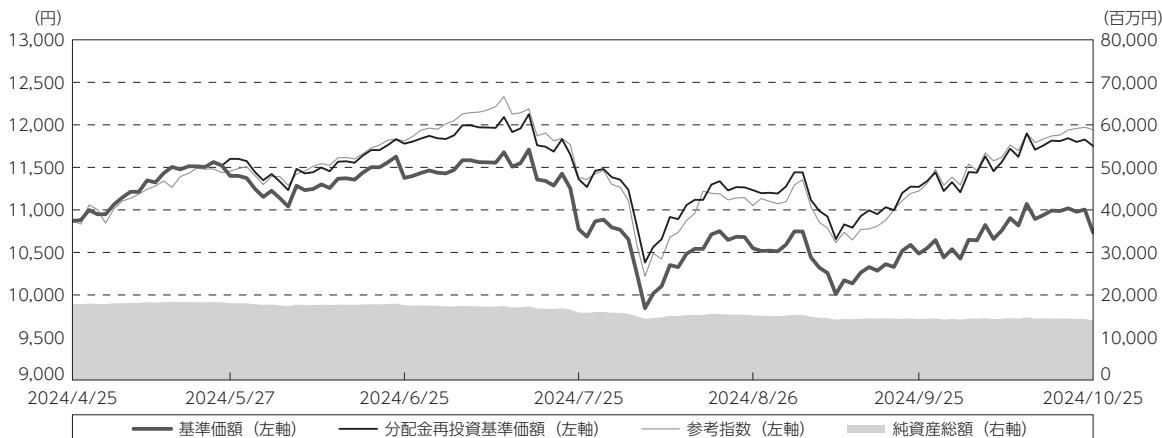
アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（予想分配金提示型）

運用経過

アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（予想分配金提示型）（以下「当ファンド」といいます。）の運用状況をご報告いたします。

作成期間中の基準価額等の推移

（2024年4月26日～2024年10月25日）



第41期首：10,871円

第46期末：10,733円（既払分配金（税込み）：1,000円）

騰落率：8.1%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、作成期首（2024年4月25日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 参考指数は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）です。詳細はP18をご参照ください。

○基準価額等の推移

当ファンドの基準価額（分配金（税込み）再投資）は前作成期末比で上昇しました。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主としてルクセンブルグ籍円建外国投資証券「AB SICAV Iーサステナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ」への投資を通じて運用を行います。当作成期間における基準価額の主な変動要因は次のとおりです。

上昇要因

- ・保有銘柄の価格上昇

下落要因

- ・円高米ドル安となったこと

1万口当たりの費用明細

(2024年4月26日～2024年10月25日)

項 目	第41期～第46期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	50 (3) (45) (1)	0.454 (0.028) (0.414) (0.013)	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用、基準価額の算出等の対価 購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) 売買委託手数料＝作成期間中の売買委託手数料÷作成期間中の平均受益権口数 売買委託手数料は、組入金融商品等の売買の際に売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.004 (0.004)	(c) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数 その他は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受益権の管理事務に係る費用、計理業務関係費用、印刷業者等に支払う法定書類の作成・印刷・交付および届出に係る費用等
合 計	50	0.458	
作成期間中の平均基準価額は、10,907円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。

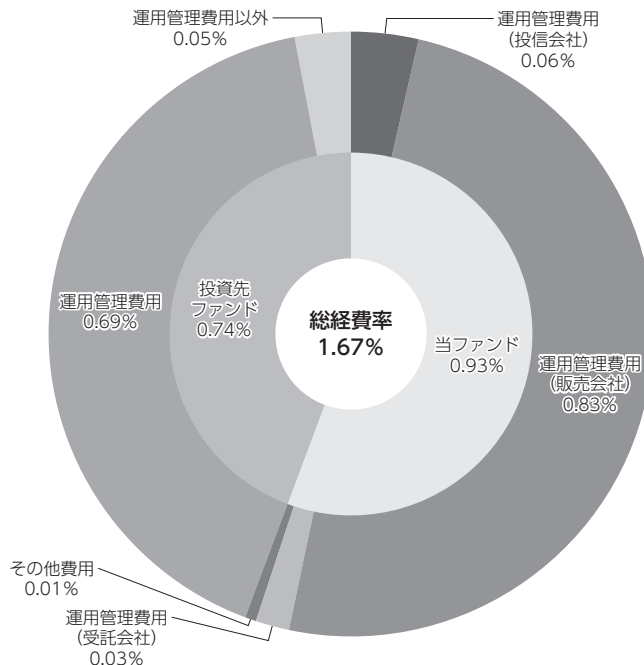
(注) 組入投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成対象期間の平均受益権口数に作成対象期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.67%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.67
①当ファンドの費用の比率	0.93
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.69
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.05

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

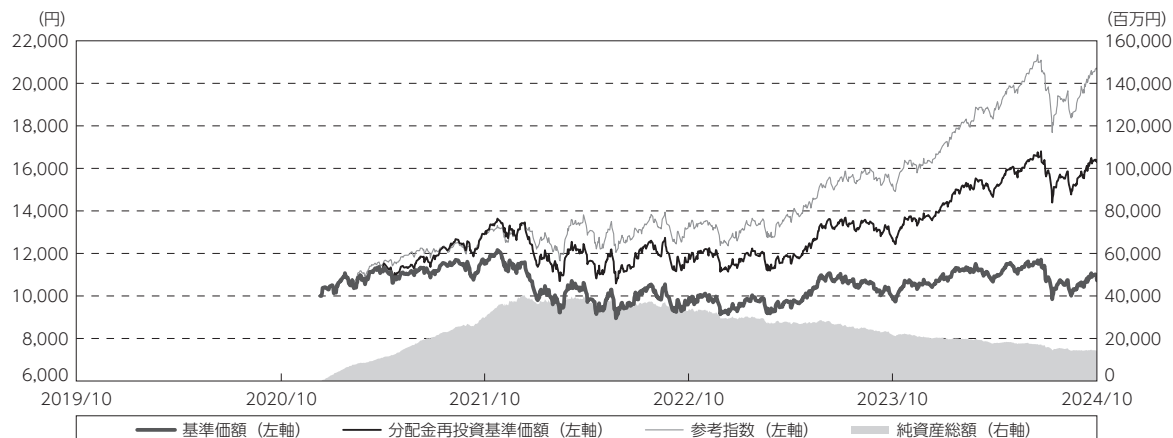
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2019年10月25日～2024年10月25日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 参考指数は、当初設定日（2021年1月5日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
 (注) 当ファンドの当初設定日は2021年1月5日です。

	2021年1月5日 設定日	2021年10月25日 決算日	2022年10月25日 決算日	2023年10月25日 決算日	2024年10月25日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,504	9,748	9,955	10,733
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	1,300	800	600	1,900
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	29.0	△ 8.8	8.1	28.1
参考指数騰落率 (%)	—	28.9	3.2	14.8	35.4
純資産総額 (百万円)	1	29,607	33,399	21,759	13,995

- (注) 上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は当初設定時の金額、純資産総額は当初設定元本総額を表示しており、2021年10月25日の騰落率は当初設定日との比較です。
 (注) 参考指数は、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）です。

●参考指数に関して

○MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックスは、先進国と新興国の株式で構成される株価指数で、世界全体の株価動向を示す指数としては代表的なものとして広く利用されています。

MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに、我が国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円換算したものです。

当該指数に係る著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、当該指数等の開発元または公表元に帰属します。

投資環境

（2024年4月26日～2024年10月25日）

【株式市場】

当作成期の世界株式市場は上昇しました（米ドルベース）。

2024年7月中旬にかけては、欧米の利下げ観測などから上昇基調で推移しました。その後8月上旬にかけては、米ハイテク大手企業の人工知能（AI）投資の収益化をめぐる懸念や、米国の景気減速懸念などから大きく下落しました。8月中旬以降は、米国の景気減速への過度な懸念が後退したことや、中国が景気刺激策を発表したことが好感され、再び上昇基調で推移しました。

【為替市場】

為替市場では、前作成期末比で円高米ドル安となりました。

2024年7月上旬にかけては、日米金利差が急速には縮小しないとの見方を背景に円安米ドル高基調で推移しました。その後は、日本銀行（日銀）が追加利上げに動く一方、米国では景気減速懸念から利下げ観測が高まったことで急速に円高が進行しました。9月中旬以降は、日銀の追加利上げ観測の後退や米国長期金利の上昇などを背景に再び円安米ドル高基調で推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2024年4月26日～2024年10月25日）

【当ファンド】

ルクセンブルグ籍円建外国投資証券「AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ」を主要投資対象とし、投資割合は高位を維持しました。

また、「アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド」にも投資を行いました。

【AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ】

SDGs*達成への貢献が期待される日本を含む世界各国の企業の株式に投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指しました。持続可能な投資テーマに適合し、世界で最も魅力的な証券を特定することを目的とし、「トップダウン」と「ボトムアップ」を組み合わせた投資プロセスを採用しました。

その結果、セクター配分においては、情報技術セクターなどを上位としました。国別配分においては、米国などを上位としました。

*「SDGs(エスディーゼーズ：Sustainable Development Goals＝持続可能な開発目標)」とは、貧困や不平等、環境破壊などの様々な問題を解決することを目指す、世界共通の目標です。17の目標(GOALS)と、より具体的な169のターゲットから構成されています。2015年9月の国連サミットで、2016年から2030年までの国際目標として採択されました。

【アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド】

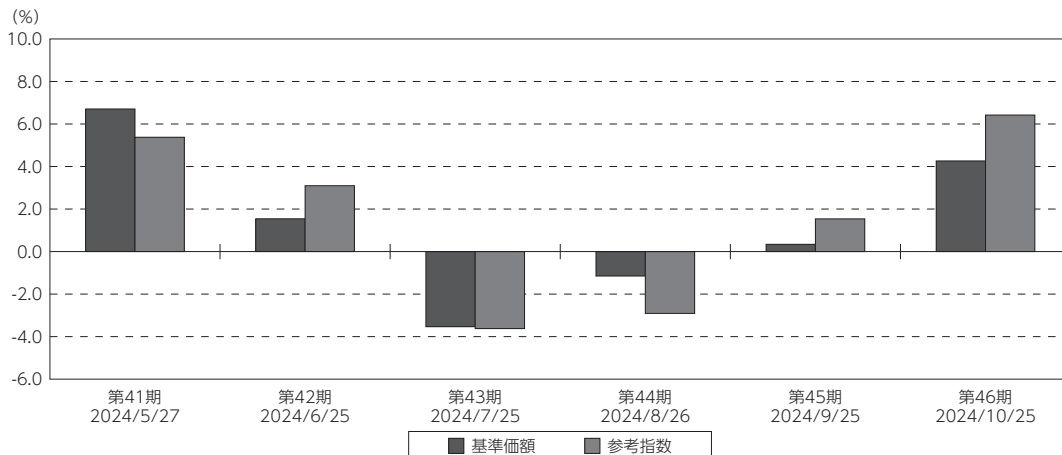
主としてわが国の国債および国内外の主要取引所に上場する債券先物に投資することにより、信託財産の成長を図ることを目標とし、日本国債の長期国債先物への投資を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2024年4月26日～2024年10月25日）

当ファンドは特定の指数を上回ることを目指す運用を行っていないため、ベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数は、MSCIオール・カンントリー・ワールド・インデックス（配当込み、円ベース）です。詳細はP18をご参照ください。

分配金

（2024年4月26日～2024年10月25日）

当作成期間の収益分配については、配当等収益に基づき、基準価額水準、市場動向等を勘案して決定しました。各決算期の分配金については、以下をご覧ください(当作成期間合計：1,000円)。なお、収益分配に充てなかった利益については、信託財産内に留保し「運用の基本方針」に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
	2024年4月26日～ 2024年5月27日	2024年5月28日～ 2024年6月25日	2024年6月26日～ 2024年7月25日	2024年7月26日～ 2024年8月26日	2024年8月27日～ 2024年9月25日	2024年9月26日～ 2024年10月25日
当期分配金	200	200	200	100	100	200
(対基準価額比率)	1.724%	1.728%	1.822%	0.939%	0.945%	1.829%
当期の収益	200	175	—	—	0	0
当期の収益以外	—	24	200	100	99	199
翌期繰越分配対象額	1,400	1,376	857	757	657	732

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数以下切り捨てで算出しているため合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注) 上記表は、経費控除後の数値です。

今後の運用方針

【当ファンド】

ルクセンブルグ籍円建外国投資証券「AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ」を主要投資対象とし、投資割合は高位を維持します。

【AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ】

AIの収益化をめぐる懸念が生じ、マグニフィセント・セブンの利益成長が減速していることで、大型ハイテク企業以外の銘柄が市場での存在感を高めています。また、幅広い銘柄でファンダメンタルズが改善していることから、市場の株価形成のすそ野がさらに拡大することが予想されます。世界各国の中央銀行による金融緩和サイクルの出遅れ、米国大統領選挙の影響、地政学的リスクに対する懸念もあり、当面は不安定な市場が予想されます。こうした中、引き続き確信度が高いポジションを維持するとともに、既存の保有銘柄の見直しを行いながら厳選した新規銘柄の組入れも行っています。半導体ソフトウェア設計のリーディング・カンパニーや、世界的なインフラ投資の拡大から恩恵を受ける企業、特定の分野に特化したニッチな医療機器企業、未開拓の市場で圧倒的なシェアを有するeコマース企業、女性向けヘルスケアに重点を置く診断および画像処理を提供する企業、アスレチック・シューズのリーディング・カンパニーなどに注目しています。サステイナブル投資の「気候」、「健康」、「エンパワーメント」という3つの投資テーマは、世界の大きな流れとともに前進を続けており、このような強力な投資テーマから利益を生み出す企業を見極めることに注力しています。引き続き、SDGs達成への貢献が期待される企業へ投資することで信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

【アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド】

引き続き、主としてわが国の国債および国内外の主要取引所に上場する債券先物に投資を行います。

※将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

<ご参考>代表的な組入銘柄解説・SDGsの取組みについて

AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズにおいて投資している銘柄は、基本的に持続可能な投資テーマに積極的に取り組む企業の株式です。代表的な組入銘柄について、SDGsが企業価値向上に資すると判断した根拠をご説明いたします。なお、以下は入手可能な直近のデータを掲載しております。

基準日：2024年9月30日

ネクステラ・エナジー



SDGs目標：7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」

【SDGsが企業価値向上に資すると判断した根拠】

再生可能エネルギーによる発電・供給の世界的大手企業。米国での石炭から再生可能エネルギーやよりクリーンなガスへの転換を可能にする。風力や太陽光などの発電において50%以上のゼロカーボンを達成。合併した電力会社のガルフ・パワーは石炭を発電に使用しているが、近年中に石炭発電所をすべて閉鎖し、新たに太陽光発電や風力発電に置き換える予定。再生可能エネルギー業界の成長にけん引され、再生可能エネルギー発電量のさらなる増加を見込み中、企業利益が成長しており、持続可能な未来へのシフトにおける業界でのリーダーとみている。

台湾セミコンダクター



SDGs目標：12「つくる責任 つかう責任」

【SDGsが企業価値向上に資すると判断した根拠】

台湾に本拠を置く専業ICファウンドリ(製造専業)のビジネスモデルの先駆者。設立以来、技術力とスケールメリットを活かした高い競争力でシェアを拡大した、世界規模の大手専業半導体ファウンドリ。今後はスマートフォンや電気自動車に続き、生成AIの台頭などを背景に更なる需要拡大が見込まれる。また、2050年カーボンニュートラルを目指す上で、半導体の省エネ化・グリーン化の重要性が高まり、同社は最先端製造プロセスの確立による半導体の微細化を通じた省電力および性能の向上に不可欠な存在とみている。

ベラルト



SDGs目標：6「安全な水とトイレを世界中に」

【SDGsが企業価値向上に資すると判断した根拠】

多様な産業向けの機器やソリューションを提供する業界大手ダナハーからスピンオフした、環境・応用ソリューション企業。主に水質事業(水質データ管理や工業用水処理、水質分析など)や製品品質・イノベーション(パッケージング管理プラットフォームなど)に関する事業を手がける。水質分析と差別化された水処理ソリューションの包括的な事業を通じて、水供給を管理、検査、処理し、工業用水の環境への影響を最小限に抑えるほか、世界人口の約4割への安全な飲料水の安定供給に貢献している。

※ SDGsアイコンは、貢献するSDGsを指します(出所：国際連合)

エンゲージメントについて

AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオの運用戦略である「アライアンス・バーンスタイン・サステナブル・グローバル・テーマ株式戦略」のポートフォリオ・マネジャーとアナリストは、投資する企業の経営陣・取締役会メンバーに対し継続的にエンゲージメントを行います。その議論のトピックは、炭素排出量、役員報酬、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン(DEI)など、環境・社会・ガバナンス(ESG)のさまざまなテーマにわたります。

過去のエンゲージメントについて、当社ホームページ(以下のURLの「月報・各種資料」)に『ESGエンゲージメント・レポート』を掲載していますので、ご参照ください。

<https://www.alliancebernstein.co.jp/retail/5246.html>

また、右の2次元コードをスマートフォン等のカメラで読み込むことで、直接ご覧いただけます。



お知らせ

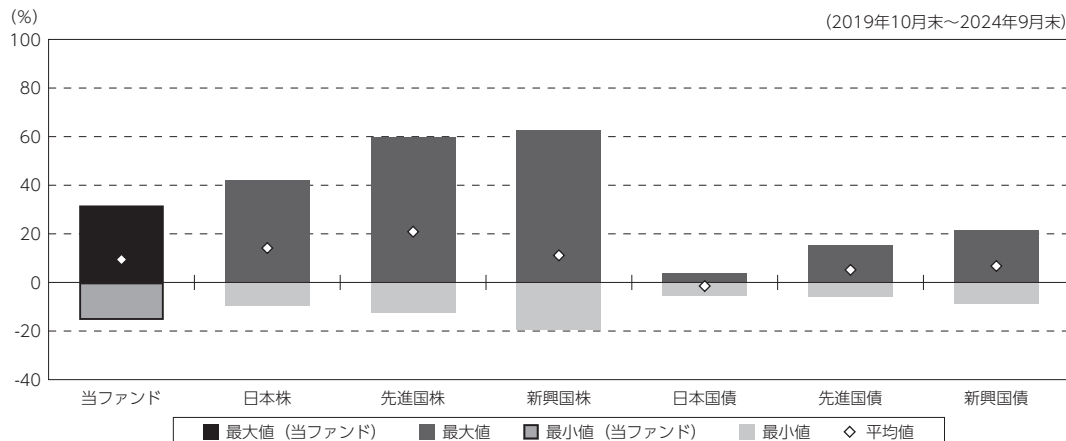
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2031年4月25日まで（信託設定日：2021年1月5日）	
運用方針	信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	アライアンス・バーンスタイン・世界SDGs株式ファンド（予想分配金提示型）	ルクセンブルグ籍円建外国投資証券「AB SICAV Iーサステナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ」を主要投資対象とします。このほか、「アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド」の受益証券にも投資を行います。なお、短期有価証券および短期金融商品等に直接投資する場合があります。
	AB SICAV Iーサステナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ	日本を含む世界各国の株式等。
	アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド	主としてわが国の国債および国内外の主要取引所に上場する債券先物に投資。
運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・主要投資対象ファンドへの投資を通じて、環境または社会志向等の継続可能な投資テーマに積極的に取り組む、日本を含む世界各国の様々な企業の株式に投資します。 ・主要投資対象ファンドへの投資割合は、原則として高位を維持します。 ・実質的な組入外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。 ・主要投資対象ファンドの運用は、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが行います。 ・ファンド・オブ・ファンズ方式により運用を行います。 	
分配方針	<p>原則として、毎決算時（毎月25日。休業日の場合は翌営業日）に以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、将来の収益分配金の支払いおよび金額について保証するものではなく、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないこともあります。 ・留保益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用を行います。 	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：％）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	31.7	42.1	59.8	62.7	3.7	15.3	21.5
最小値	△ 15.4	△ 9.5	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	9.4	14.1	20.9	11.1	△ 1.5	5.2	6.8

- (注) 上記グラフは、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、2019年10月～2024年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- (注) 当ファンドの年間騰落率は分配金再投資基準価額に基づき計算した騰落率ですので、実際の基準価額に基づき計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- (注) 当ファンドにつきましては、2022年1月以降の年間騰落率を用いています。

《各資産クラスの指数》

- 日本株……TOPIX（東証株価指数、配当込み）
- 先進国株……MSCI - KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）
- 新興国株……MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
- 日本国債……NOMURA - BPI 国債
- 先進国債……FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）
- 新興国債……JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、P29の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2024年10月25日現在)

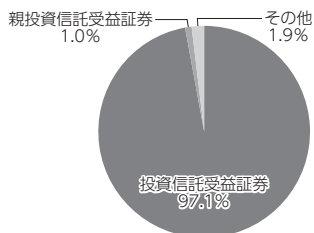
○組入上位ファンド

銘柄名	第46期末
	%
AB SICAV Iーサステイナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ	97.1
アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド	1.0
組入銘柄数	2銘柄

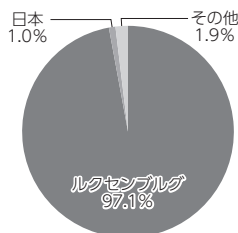
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

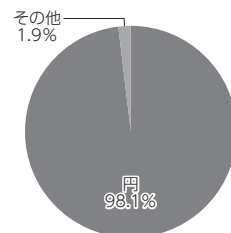
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

項目	第41期末	第42期末	第43期末	第44期末	第45期末	第46期末
	2024年5月27日	2024年6月25日	2024年7月25日	2024年8月26日	2024年9月25日	2024年10月25日
純資産総額	18,058,211,211円	17,576,096,534円	15,868,962,411円	15,184,908,355円	14,324,756,786円	13,995,221,546円
受益権総口数	15,839,864,372口	15,449,888,015口	14,728,278,722口	14,393,523,586口	13,660,723,409口	13,039,544,545口
1万口当たり基準価額	11,400円	11,376円	10,774円	10,550円	10,486円	10,733円

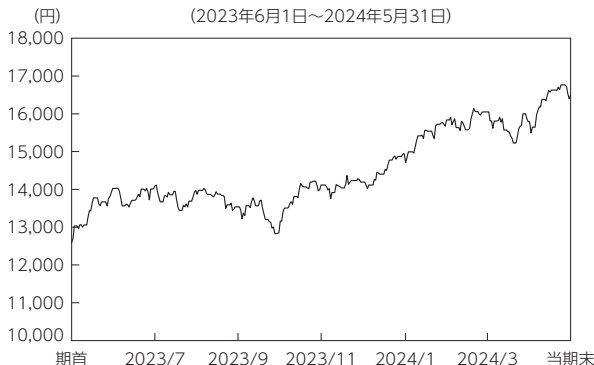
(注) 当作成期間（第41期～第46期）中における追加設定元本額は171,314,793円、同一部解約元本額は3,533,625,722円です。

組入ファンドの概要

AB SICAV Iーサステナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ 円建てクラスS1シェアーズ

作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2023年6月1日～2024年5月31日)

1万口当たりの費用明細に該当する情報を取得できないため、掲載しておりません。

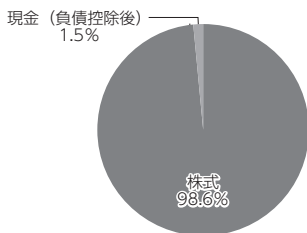
以下は「AB SICAV Iーサステナブル・グローバル・シーマティック・ポートフォリオ」全体の直近の決算日（2024年5月31日）現在の内容です。

【組入上位10銘柄】

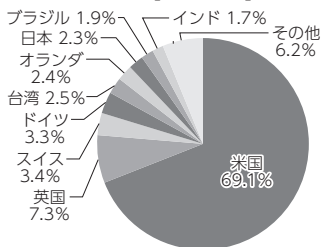
(2024年5月31日現在)

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1	マイクロソフト	情報技術	米ドル	アメリカ	3.3
2	エヌビディア	情報技術	米ドル	アメリカ	3.2
3	VISA	金融	米ドル	アメリカ	3.1
4	ネクステラ・エナジー	公益事業	米ドル	アメリカ	3.1
5	ウエスト・マネジメント	資本財・サービス	米ドル	アメリカ	3.1
6	フレックス	情報技術	米ドル	シンガポール	2.9
7	ベラルト	資本財・サービス	米ドル	アメリカ	2.5
8	台湾セミコンダクター	情報技術	新台幣ドル	台湾	2.5
9	テトラ・テック	資本財・サービス	米ドル	アメリカ	2.4
10	アイコン	ヘルスケア	米ドル	アイルランド	2.4
組入銘柄数			52銘柄		

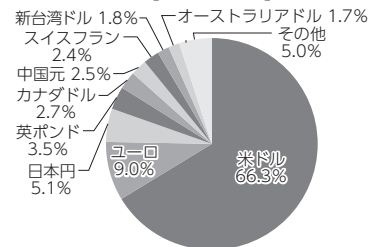
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 当組入ファンドの概要は、管理事務代行会社のデータをもとにアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが計算しています。

(注) 組入比率は小数第2位を四捨五入しています。資産の状況によっては合計が100%にならない場合があります。

(注) 資産別配分、通貨別配分、組入上位10銘柄の比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分の比率は、組入証券評価額（除く現金）を100%として計算しています。

(注) 国別配分は、発行体の国籍や事業内容を考慮して区分しています。

(注) 通貨別配分はネットの比率です。

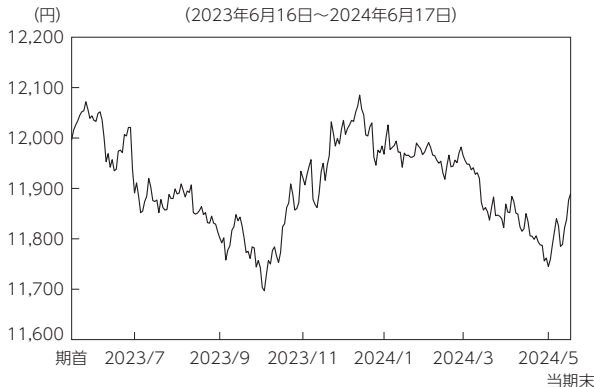
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

アライアンス・バーンスタイン・日本債券インデックス・マザーファンド

当マザーファンドの当計算期間の運用経過等については、「運用報告書（全体版）」をご覧ください。運用報告書（全体版）の入手方法は、表紙ページの一番下の段に記載しております。

【基準価額の推移】

(2023年6月16日～2024年6月17日)



【1万口当たりの費用明細】

(2023年6月16日～2024年6月17日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	0 (0)	0.004 (0.004)
(b) その他費用 (その他)	1 (1)	0.008 (0.008)
合計	1	0.012

期中の平均基準価額は、11,897円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては、運用報告書（全体版）をご参照ください。
- (注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。
- (注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○現物資産上位10銘柄

(2024年6月17日現在)

銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 第1164回国庫短期証券	国債証券	円	日本	26.7%
2 第1170回国庫短期証券	国債証券	円	日本	26.6%
3 第1228回国庫短期証券	国債証券	円	日本	25.0%
4 -	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-
7 -	-	-	-	-
8 -	-	-	-	-
9 -	-	-	-	-
10 -	-	-	-	-
組入銘柄数	3銘柄			

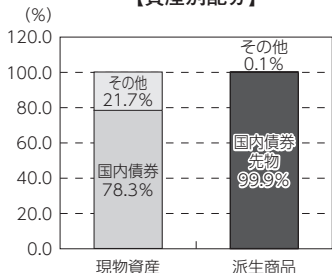
○派生商品上位10銘柄

(2024年6月17日現在)

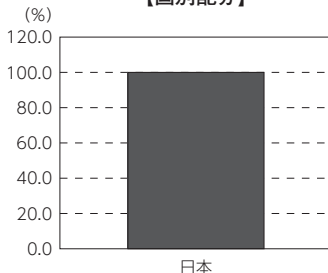
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 長期国債標準物先物	債券先物(買建)	円	日本	99.9%
2 -	-	-	-	-
3 -	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-
7 -	-	-	-	-
8 -	-	-	-	-
9 -	-	-	-	-
10 -	-	-	-	-
組入銘柄数	1銘柄			

- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
- (注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
- (注) 国（地域）につきましては発行国を表示しております。

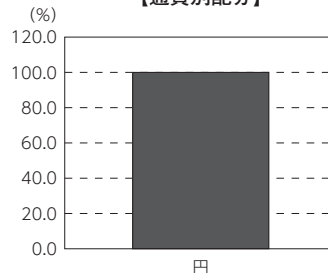
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は当マザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- (注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○TOPIX（東証株価指数、配当込み）

TOPIX（東証株価指数、配当込み）は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社が算出し公表する、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。